

アルミ 二次合金、スクラップが増加

自動車関連の統計はなおマイナス

橋本金属
アルミ橋本健一郎氏リポート②

【概況】五月前半は四月の中国の鉱工業生産が九・三%増と予測の九・五%増を下回ったこと、中国CPIが二・四%と予測を上回った事による金融緩和期待の後退、などマイナスマテリアルはあったものの、中国貿易統計が一八億ドルと予測の一六・億五千万ドルを上回ったことや世界的な株高を背景に、LMEアルミ相場は一、八四〇ドル(現物後場買い)と前月最終価格から約三ドル上昇しての前半締めとなった。

後半はOECD(世界開発機構)が一三年の世界GDPの見通しを三・四%増から三・一%増に引き下げたこと、五月の中国HSBCのPMI(製造業購買担当者指数)が四九・六と予測の五〇・四を下回り七カ月ぶりに景気判断の五〇を下回るなどマイナスマテリアルもあったが、米住宅価格指数が一〇・九と予測の一〇・二%を上回ったこと、五月の消費者信頼感指数が七六・二と予測の七一・二を大きく上回った事、上海総合株の五週連続の上昇などファンダメンタルズの好転から、LMEアルミ(現物後場)は一、八八五ドルと前半締めから四五ドル上昇してのスタートとなった。

■前月の経済指標

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年六・五%減の七四万七、七三〇台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比七・三%減の二二万九、〇九九台。

◆新設住宅着工戸数

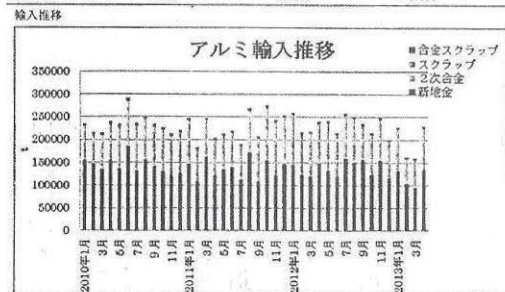
国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比五・八%増の七万七、八九四戸であった。

◆貿易関連指標

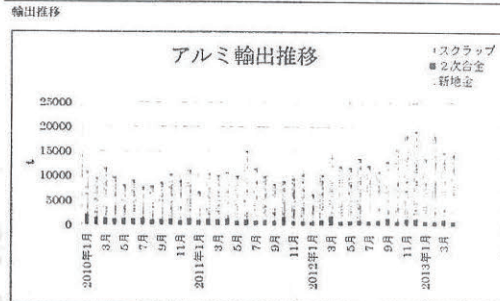
財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前年比二・三・八%減の六四一、二次合金が二・一%増の八〇二一、スクラップが二〇・二%増の一三、六六〇一。

輸入は新地金が前年比八・八%減の一三万九、九六一、二次合金が三・九%増の九万七、六三三、スクラップが二〇・四%増の

輸入	2月	3月	4月
新地金	10万3596 t	9万5210 t	13万4996 t
前年比	-16.5%	-20.6%	-8.8%
二次合金	5万5269 t	6万568 t	9万0763 t
前年比	-38.3%	-35.8%	+3.9%
スクラップ	723 t	730 t	820 t
前年比	-20.7%	-43.3%	+20.4%
合金スクラップ	2964 t	3054 t	3805 t
前年比	-3.9%	-20.1%	+1.4%



輸出	2月	3月	4月
新地金	50 t	249 t	64 t
前年比	-66.4%	+28%	-23.8%
二次合金	751 t	959 t	802 t
前年比	-14.5%	-42.2%	+22.1%
スクラップ	17565 t	13782 t	13660 t
前年比	+87.6%	+7.2%	+20.2%



【前月の国内指標】
日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比三・一%減の一六万三、四三六t。
日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比〇・四%減の六万七、四二七tであった。(六面に続く)

アルミ玉薄などでメーカーは買い姿勢

LMEアルミ、上値は二千ドルか

(二面より続く)

【見通し】

五月は、米国金融緩和縮小観測と中国経済ファンダメンタルズに一喜一憂した月となった。

金融緩和縮小観測、報道がでる一方でFRBバーナンキ議長が緩和策の継続を発表、また英銀大手HSBC発表の五月の製造業購買担当者指数(PMI指数)が四九・六と前月の五〇・四から低下、七カ月ぶりに景気判断の五〇を下回ったことから。

自動車生産は前年比六・五%悪化の八カ月連続マイナス。国内向け生産が一・五%増と回復する一方、輸出向け生産が一・一%減。販売の方はまたまた前年比割れの七・三%減。貨物車が七%増だったが、乗用車が九%減だったことから。

新設住宅着工戸数は先月に続き八カ月連続増加、前年比五・八%増(季節調整済み前月比三・九%増)の七万七、八九四戸。今月も唯一堅調な住宅関連。アベノミクスによる長期金利の上昇に伴う住宅ローン金利など今後の動向に注目。

自動車関連のアルミ二次合金生産は前年比〇・四%減と二カ月ぶりマイナス。

大幅円安は継続しているものの、輸出用自動車生産が減少したためとの見解。

その他、圧延・押出品生産数は前年比三・一%減と悪化。

圧延に関しては、缶材は缶メーカーの在庫調整で四・七%減、自動車向けがエコカー減税の反動や中国・アジアへの輸出減から二・八%減。

輸出は新地金が前年比三・三・八%減の六四〇、二次合金が二二・一%増の八〇二、スクラップが二〇・二%増の一万三、六六〇。

国内需要が旺盛な二次合金も含め、大幅な円安を背景に輸出増との見解。

輸入は新地金が前年比八・八%減の三万四、九九六、二次合金は三・九%増の九万〇、七六三、スクラップは二〇・四%増の八二〇、合金スクラップは一・四%増の三、八〇五。

前月に続き、新地金は携帯電話や電気関連の板・条需要の不振や円安からの割高感のため輸入塊は減少、二次合金・スクラップは国内玉不足からの手当てで増加との見解。

引き続き原料需給には供給不足

【アルミ需給に関して】

住宅関連は新設住宅着工数が前年比五・八%増、八カ月連続増加と堅調なものの、まだまだ自動車は生産が前年割れが続く先行きが不透明。

五月の国内販売台数も七・三%減と改善はまだ見られない。ただ慢性的な発生減による原料不足、復興需要、増税前の駆け込み需要やアベノミクスによる公共事業新の増加なども期待でき引き続きメーカーは買い姿勢と予測。

【LME価格に関して】

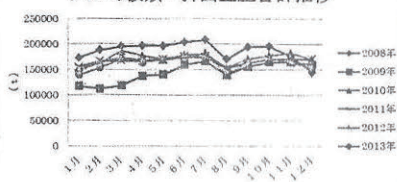
中国・欧州の経済ファンダメンタルズに今月は左右される。

欧州はECBが債務縮小期限を延ばすなど金融緩和に舵を切り出していることから、仮に悪い指標が出てきてもさほど問題視されず、比較的需給に沿った安定した相場になるとの予測から、上値は五月最高値付近の二、〇〇〇ドル。

下値は銅価格の急落にも連れずファンダメンタルズに沿った動きがここ数カ月みられることから直近安値の一、八〇〇ドル

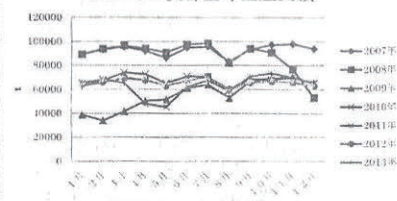
スクラップ価格についてはLME価格がもう一段の一、九〇〇ドルに近づいたことや、円安の長期化、国内需要の増加から据え置き、五円程度の値上げがあるとの予測。

アルミ板類・押出生産合計推移



出典 日本アルミニウム協会

アルミ二次合金等生産実績



出典 日本アルミニウム協会

◇KLT M ず相場

六日

二〇・九五〇

三七

米ドル
トン